

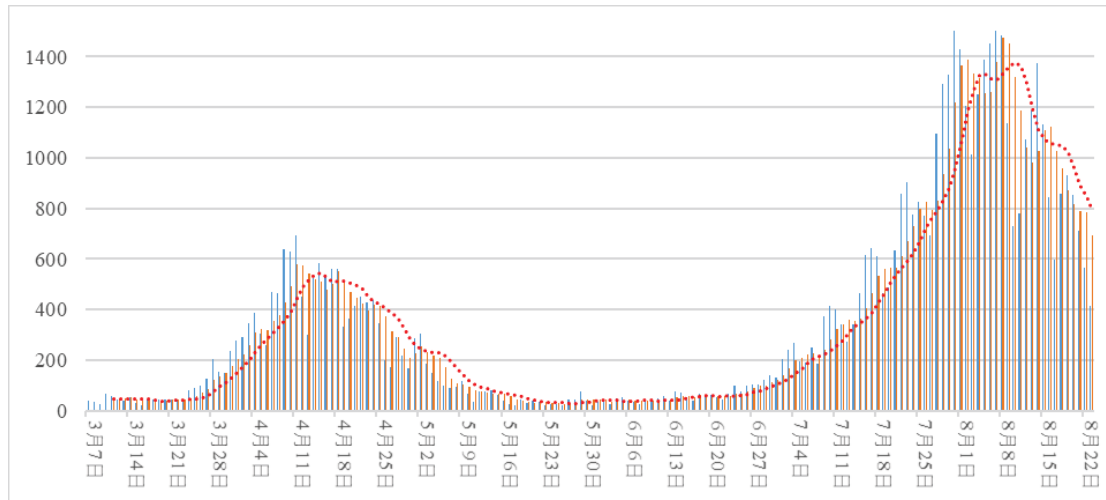
新型コロナウイルス感染症
流行シミュレーション作成事業
結果（2020年8月24日版）

群馬大学大学院医学系研究科公衆衛生学分野

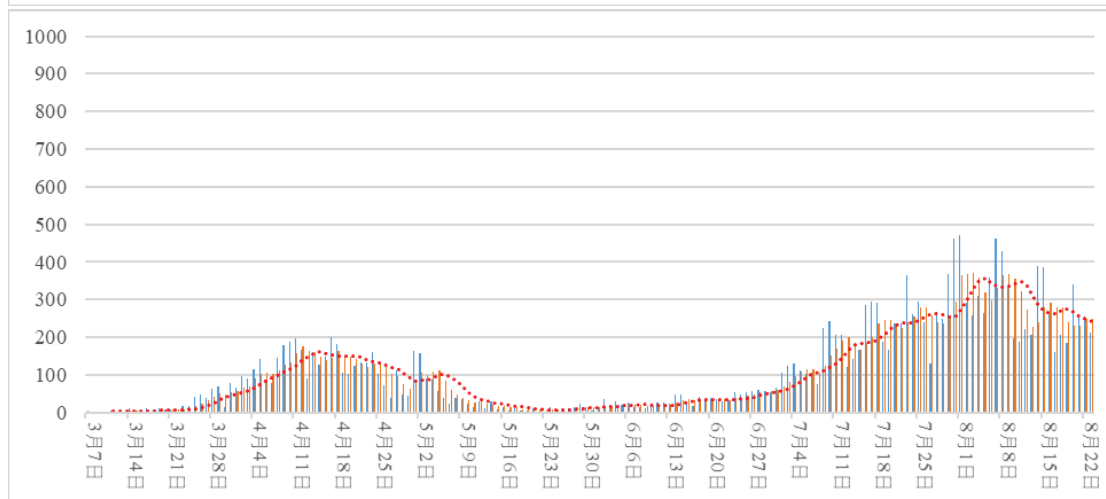
I 流行のリアルタイム評価

- 全国と東京では， 8月前半にピークを認めた。
- 8月後半の現在はやや減少傾向である。

全国



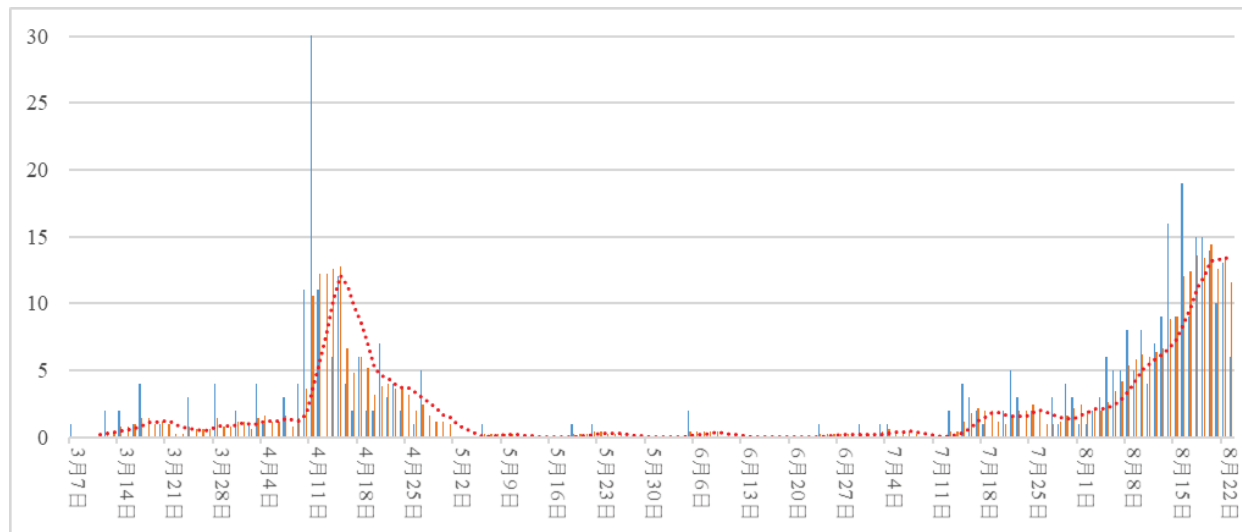
東京



青：報告者数
橙：移動平均（5日）
破線：橙の近似曲線

I 流行のリアルタイム評価

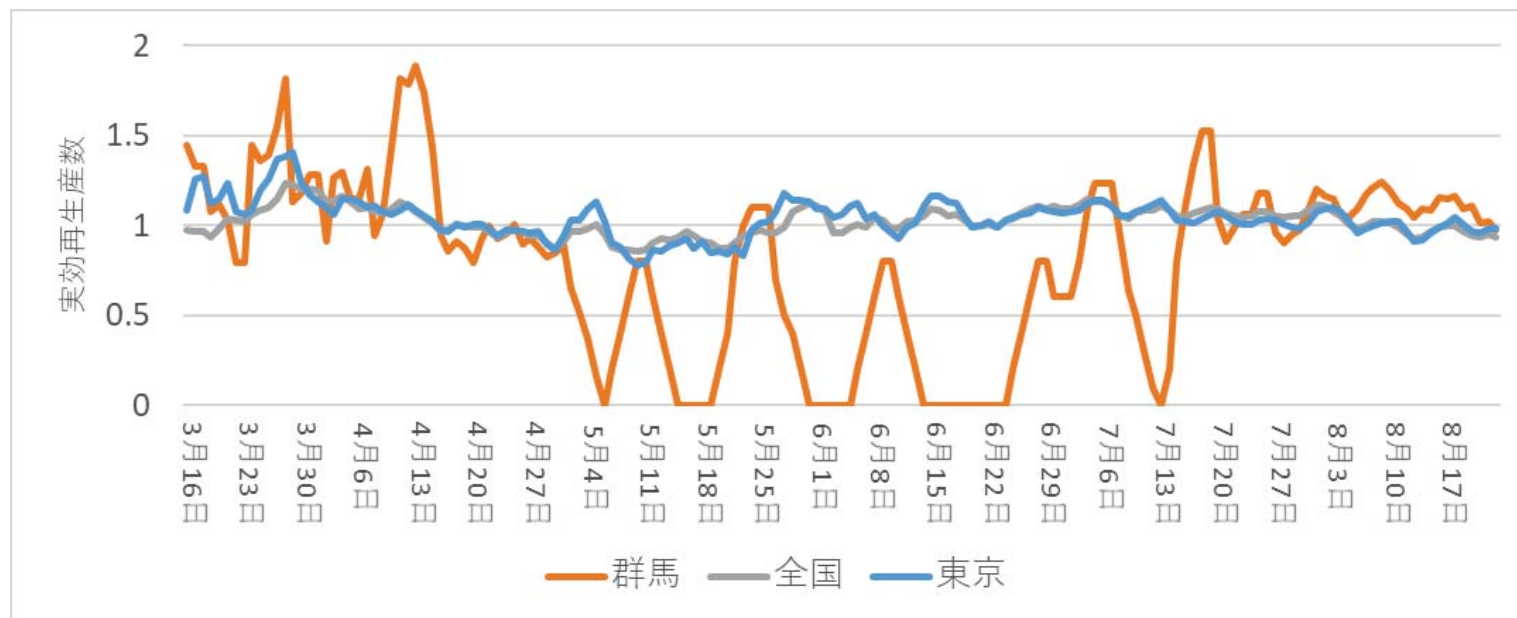
- 群馬県では，7月から8月後半にかけてPCR陽性者の報告が続いている。
- この1か月で，東京都など他県で感染して群馬県に持ち帰ったケースの報告から，県内の飲食店で感染拡大したケースの報告に変化した。



青：報告者数
橙：移動平均（5日）
破線：橙の近似曲線

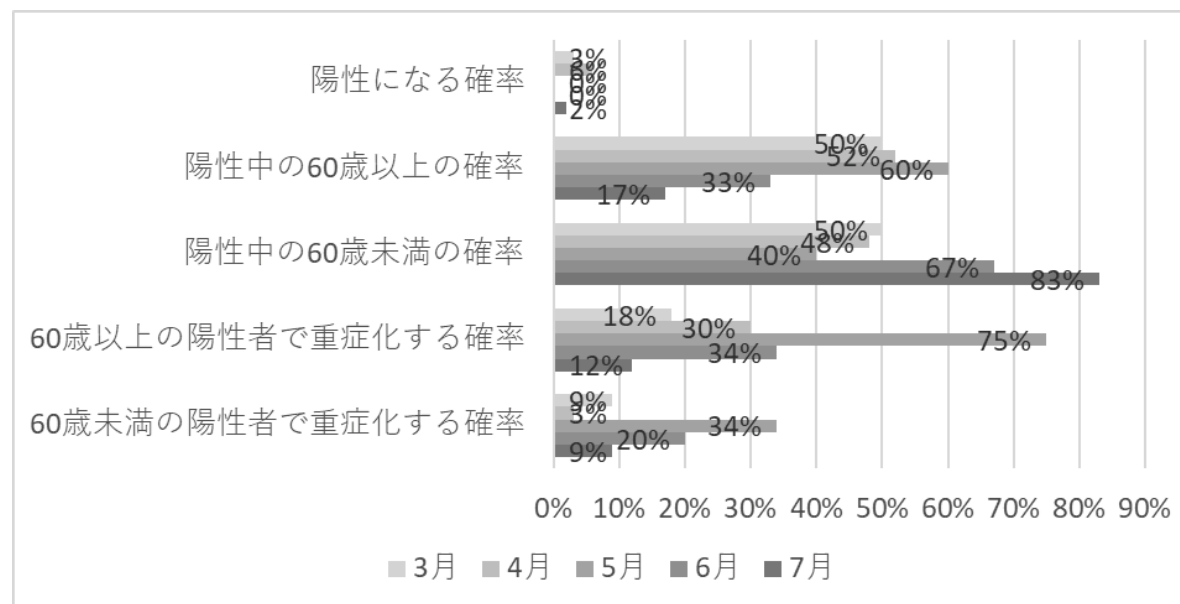
I 流行のリアルタイム評価

- 東京と全国は、7月初旬よりPCR陽性者等の報告数が漸減し、実効再生産数の推定値は1を下回った（最新値：全国0.95，東京0.98）。
- 群馬県は、7月は報告が少なかったが、8月よりクラスターの報告が続き、推定値は1を上回っている。最新値は1.02である。



II PCR検査結果予測

- 月別のPCR検査件数からどのくらいの確率で陽性者が出るかベイズ推定した(Rstanを使用)。
- 陽性者が60歳未満である確率は、6月は67%、7月は80%を超え、徐々に増加していた。
- 重症化する確率は、全ての世代で5月がピークとなり、6月、7月は徐々に低下していた。



まとめ

- 現在、全国的にPCR陽性者等の報告数は減少傾向にあるが、群馬県は微増傾向を示した。
- 県民の皆さんの努力により、8月のお盆の帰省による世代を超えた感染拡大は認めなかった。
- 一方で飲食店などを通じて、若者同士の感染伝播を疑うケースが相次いだ。気の緩みにより感染拡大している可能性があると考えられる。
- PCR検査の陽性化の確率を月別に計算しなおした。現在は陽性者の年齢が低くなる傾向を認めた。また同時に重症化する確率も下がっていた。
- 引き続き、全ての世代における感染防止対策が必要である。